

Save The Tropical Forests



森の通信

2007.7.2



〈樹の上で何を想う? オランウータン〉

CONTENTS

- people ③ FOE Japan 岡崎晴春さん …… 3P
- やれば出来る! ラミン材違法採止 ⑩ …… 4P
- サラワ・ダイブ首相の汚職疑惑 …… 8P
- 世界の森林ニュース …… 10P
- 新聞切抜 …… 11P

【ラミン密輸停止宣言】…NGO、政府、企業がやれば出来るのだ！

2001年からラミン調査会が出来た。そしてラミン調査会はワシントン条約付属書採択へ努力した。ウータンは全国自治体に【違法材使用停止】を求める動きをした。2003年にスマトラ島で違法伐採により250名が死傷し、ウータンもラミン停止へ全力を注いだ。そして2004年から本格的に輸入・使用・扱い企業へ停止依頼を求めた。政府や他の森林保護NGOにも協力を依頼。2004年秋、200社が停止を決め、ワシントン条約会議前に日本では【ラミン停止へ向かう記者会見】を実施。

2006年、インドネシア NGO・同政府等の努力下、同国の違法伐採の状況が変わる。国際キャンペーンが大きな存在となった。そして今年、日本では500社を越す企業が停止と。2007年インドネシアからマレーシアへのラミンの密輸が激減した。シンガポール企業の8割も停止を決める。一部のマレーシア企業が販売するが、密輸激減やラミン材価格急騰で今後販売は大変困難なのだ。まだ販売をあきらめない企業もあると聞く。だがもう密輸すれば逮捕される、出来ない。ラミンの密輸はこの6年で変わった。やれば出来るのだ！

《ウータン活動報告》—6月28日、環境庁記者クラブで【ラミン密輸停止宣言】

2007・3・13 ウータン、ラミン未停止・未回答企業約100社へ停止依頼

- 3・27 ウータン、新パンフ作成
- 4・4 アースデー大阪会議に参加
- 4・10 ウータン・ラミン調査会合同会議開催、ウリン販売企業リストほぼ完成。
- 4・15 ラミン停止企業が500社を越す。ホームセンター5位のコメリも停止へ。
- 4・17 『通信ウータン83号』発刊、
- 4・17 インドネシア・タンジュンブテイン国立公園へエコツアー『違法伐採反対・原生種植林』
第1回企画会議開催
- 4・20 アースデー大阪のイベントに参加
- 4・25-5・1 西岡、マレーシア・サラワク-西カリマンタン国境、シンガポール企業調査
- 5・1 ウータン、ラミン調査会合同会議
- 5・4 タンジュンブテイン国立公園現地 NGO から「火災、植林の苗不足・Help」連絡あり。
- 5・8 ウータン、タンジュンブテイン国立公園へエコツアー第2回企画会議緊急開催。
- 5・9 中村、インドネシアへ
- 5・22 ウータン、ラミン調査会合同会議、インドネシア、マレーシア、シンガポール、日本等のラミン流通状況を総合し、『ラミン密輸停止宣言』を6月末にできる。
- 5・26-27 ウリン調査を名古屋で、*西岡
- 6・3 ウータン、エコツアー第3回企画会議

People③ save the World's Forests

日本の森林保護NGOをリードする

国際環境NGO FOE Japan 岡崎時春さん



1991年の日本政府の違法材対策に対して、日本国内の森林保護NGOをまとめてリードしたのがFOEジャパンの岡崎時春代表理事(現在・副代表理事)。詳しい経歴を知らないが、某大手企業を退職後に、FOEジャパンを引っ張って、まとめられた。私たち森林保護NGOの窓口ともなり、国際会議でも辛口の批判・指摘・要請で有名。政府と違法伐採問題などを通し、NGOの位置を大きく変える契機を作り出してくれた人でもあり、最近では全国木材連合会と一部で共同作業をされたり企業とも話合いの場を作ってくれたりもしている。

65歳を越えても連れ合いさんと一緒に廻られる行動派でもあり、愛妻家でもある。また、私たち中心で実施の【違法材ラミン使用停止キャンペーン】が「完全停止」出来るようになったが、そのアドバイザーの一人でもある。改めて感謝したい。

(写真・文責/西岡)

《やれば出来る！ラミン材・

違法材停止⑬》違法材停止進む！

激減やったあ！／国際キャンペーン(10)

事務局長・西岡良夫

【インドネシア産がサラワク産木材になる】

2007年4月下旬、マレーシア・サラワク州とインドネシア国境の5つの地点の調査に向かう。

今回は、サラワク州やサラワク州直轄のサラワク木材開発公社(Har wood)が指定している5つの国境地の Custom (日本で言う税関にあたる地) でサラワク側での違法取引の調査だ。

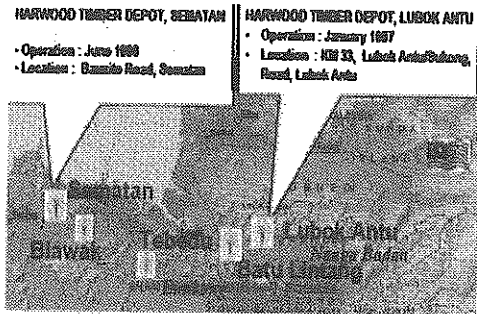
北から Lubok Antu(ルボック・アンツウ)、Batu Lintang(バツ・リントン)、Tebedu(タビドゥ)、Biawak(ピアワク)と海辺 Sematan(セマタン)。

今までこの5つの Custom 近くでインドネシア産ラミンをはじめインドネシア産の記録材があれば、サラワク州は《輸入できる木材として【マレーシア産】ラベルで取引》している。

2005年10月、Telapak(テラパック・インドネシア環境NGO)と一緒に、インドネシア・西カリマンタン国境エンティコン(Entikong)を調査すれば、違法材を積むトラックは堂々と Custom のチェックもなく明け方から夕方までマレーシア・サラワク州へ通り抜けていた。

税関の車の幌を開けない取引チェックのため、私たちはこの問題を英文で国際熱帯木材機関理事會に参加するマレーシア政府、インドネシア政府や各国政府、国連等にPR・報告した。

皆がインドネシア産の違法材がマレーシアへた易く運ばれている事を大半が知らない。



今回は「現在はどうなっているのか」の継続調査だ。

既に2007年3月、中村さんのインドネシア調査で、ラミンを大量に買付・販売していたタンジュン・プティン国立公園近くのパンカラン・ブン市の木材市場で「ラミン販売販売が出来なくなった」との開取りの報告を受けていた。この関連もある。これはインドネシア政府が強力に違法伐採を取り締り出したから。

サラワク州都クチンからタクシーでタビドゥへ向かう。約1時間半。Customの前のレストランで状況を伺う。クチンからのここまで木材トラックは来ない。少し来た時間が遅かったのか？ やっと1台来た。幌を隠したままだ。午前10時から2時間の間に1台のみ。

「Har Wood社はサラワク側 Custom とインドネシア Custom エンティコンの間にある。最近、木材トラックは日に約5-9台。以前に比べ非常に減った」と地元民。今日は2台だと。その日は Sri Aman(スリ・アマン)に泊まる。

朝5時に起床し、タクシーを伺う。初めての町でホテルに違法材調査を知られたくないから。

「ルボック・アンツウ、バツ・リントンに行けるか」と止まったタクシー運転手に尋ねる。

「OKだ。どちらも知っている」と運転手。

【ルボツ・アンツウ等で激減する違法材】

スリ・アマンからルボツ・アンツウまで2時間。ルボツ・アンツウは朝8時～9時頃が一番通過するというデータ。村に抜けてくるトラックを待つこと1時間。1台も来ない！なぜだ？

場所をHar Wood社前に移動する。ここでも来ないので、暇そうにするサラワク州の下にあるHar Wood社員のところに行き、聞いた。

「近くのパタン・アイ・ダムとリゾート見学に来て、この地のホテルで国境が近いと聞いて来ました。インドネシアから車はここに来ないのですか」とトボケて言う。

「今日は来ない。我々はサラワク州関連の木材企業。インドネシアからの木材をチェックしている。今週は1台もトラックが来ない。」

「なぜですか」と私。

「インドネシアは違法伐採が多く、問題があった。取り締まりが厳しくなったからだろう。我々も暇のほうがよい。違法材が来たか調べなくて済むし、仕事しないほうが良い」と社員。

「月にいくら運ばれてくるのですか」と聞く。

「昨年秋から激減したなア、月200-500 m³。今年になってもっと減り、100-200 m³。7000-9000 m³もあった2005年はうそのようだ。

タビドゥで2005年に8000-1万m³だとの報告が、あそこも今は月200-500 m³位しかインドネシア側から運ばれていない。」

彼らはあまり暇そうだから、どんな木があとにしているのかと訊く。写真撮影もOK。

「ダマール、ドリアン、メランティ、ベルボック。ラミンは今年ほとんど見ない。ラミンはインドネシアCITES証明がなければサラワクに入れない」とHar Wood社員が笑う。

「Good Job」と挨拶し、次の地へ行く。あまりの変化に驚いた。



▲ 違法材がなくなったバツ・リントン

【バツ・リントンでは違法資材なくなる!】

バツ・リントンへはスリ・アマンから車で30分。村に着たが、ここでも木材トラックが見られない。突然、タクシーは無人数しいHar Wood社に入ってしまった。具合が悪いので私は、「こんにちは」と宿舎にノックし声をかける。

Batu Lintang(バツ・リントン)のHar wood社には誰もいなかった。同社がチェックするための土場に木材は1本もなく、哑然。

再度村に向かい、村人に聞く。

「この頃、木材トラックが来ていますか」と率直に聞く。

「木材は以前かなり運んでいたが、今年は僅かだ。約20 m³かなあ。この4月はゼロ。」

インドネシアからここを通過するには、急な山道で道が狭く、ランドクルーザーかバイクしか無理。大きな車やタクシーは駄目。インドネシアからの車は最近ほとんど通らないと村人。

ここは特に違法材が激減している。長居は禁物だ。次はセマタンとピアワク。



▲セマタン～インドネシアから違法輸入
ガツグク

【セマタンはインドネシアから輸入量多い】

ホテルでタクシーを予約する。こんなことは初めて。明日朝は雨らしいからだ。

セマタンは3度目。インドネシアから海路でセマトンのHar Wood社に木材を中型船、小船で運ぶ。浅瀬の海で、満ち潮の時が運ばれる。

朝5時発つ。雨の中をタクシーがいく。対向車線に何台もの木材トラックが通り抜けていく。

午前7時前、セマタン着。引き潮だ。しまった。インドネシアからの船は既に木材を降ろした後だ。最後の1隻が国境方面へ戻っていく。

仕方なくレストランで朝食。警察や軍関係者もレストランに来る。どうも変だ。以前なら、いないのだが、。タクシー運転手に「直ぐにセマトンのリゾートを見に行きたい」と伝える。

密輸船が見える所にできた新リゾート。1軒は軍宿舎の隣り。もう1軒は朝夕食付ホテル。どちらも高級ホテル並みの値段だ。このホテルは違法材貿易が困難になった時に、観光資源とするのだろうか。

2軒のホテル見学で時間をつぶして、反対側のHar Wood社へ。タクシー運転手に反対側にある村の状況を見たいと告げる。

「あれとあれはなに？」と聞く。

「あれは軍施設、あちらが警察だ」と運転手。

軍、警察の施設を新規に建設していた。村人が住んでいた家にも軍が各6名ほど住んでいた。違法材のチェックか、それとも密輸の護衛か？

Har Woodはやはり一杯木材が積まれ、クレーン2台が木材を動かす。2003年、Har Wood関係者に聞き取りしたら月に8000-15000m輸入だった(知人の弁護士にタクシーを紹介による)。それより少し減った状況か、...？

車から降りてラミンが運ばれているか、今回ゆっくりチェックできない。違法材を護衛の大量の警察配置で、トラブルなら問題になるから。

急いでセマタンを去る。この足でピアワクだ。

セマタン、ピアワクへの道はルンドウから。

セマタンと同様にピアワクへの道は5m幅員の広い道、だが未舗装。新規に造った橋、道路拡張工事を見る。近くに家はないのだが、。

ピアワクの村に着く。写真を撮ろうとしたら、軍関係者が来て「ここを撮るな」という。

私は「インドネシア国境につながると聞き、来ました、あの径ですか、あれは写真OK？」と訊く。軍は「あそこは撮影OK」と。

私はその道をどんどん行ったので、「その写真はOKだが、それ以上行っては駄目。インドネシアには1Kmもないから」と、慌ててついでに軍関係者だった。

村の状況を撮影し、ルンドウからクチンへ戻る。約6m幅の新道を通る。木材トラックを3台追い抜かして行く。やはり木材輸送のためか。

私は疲れて、タクシー車内で寝始めた。

【そしてシンガポール企業の停止へ再度..】

マレーシア・サラワク州で起こっている出来事を、インドネシアNGOのTelapakにサラワク州を離れシンガポールのホテルから電話する。

「エッ、それは大変な変わりようだ。だが、スマトラ島から半島マレーシアには今も運ばれている」とTelapakのヤヤット。

それで、シンガポールでEIAのメンバーとホテルで会う。彼も驚いていた。

欧米環境保護団体EIAは、シンガポールにもメンバーを増やしていた。私は2006年に彼、ピクタとクアラルンプールの空港で会っていた。

ホテルの外に出て、ラミンとメルバウの情報を交換しようと話す。ピクタは

「メルバウのシンガポール企業で我々の知らない企業もあるので、知っていたら教えて」というので、私は「Robinson通りだ」と告げる。ここのAfro Asiaビルの中にメルバウを扱う4社がある。そのうちの1社Wは、インドネシア警察からもマークされているが不思議と逮捕されていない。もう1社は月48000m3も違法伐採している企業Tだ。

私たちは4社のうち一番小さな取引高の企業を訪問。ピクタは「やばくないか」と訊く。ノックする。鍵穴から覗くも不在だった。

私は「こちらが正当なのだから、堂々とすれば良い。ただし代表者らと会ってやばそうな企業なら、すぐに退散だ。身の危険も考慮すべきだから」と伝える。ピクタは以前木材マフィアに睨まれたことがあるからだ。

悪徳企業はマフィアと癒着し、地元の警官を金で巻き上げて、自分たちの都合の良い方に変えている。しかし国際キャンペーンでかなりの木材マフィアが活動しにくくなったとはいえ、氣をつけねばならない。

今度は2001年にシンガポールへラミンを密輸したところへ案内してもらおう。ピクタは、

「ここでお終いだ。我々とTelapakは明日から中国でのメルバウの違法輸入の調査があるから」という。

そこ、ジュロン南は多くの運送企業の中型船が多く停泊していたが、ラミンの姿はなかった。

私は次の地にタクシーで行く。公共交通機関がなく車でも20分ほどかかる半島マレーシアに近いラミンを扱う企業。午後4時45分着。

「K社を御存じないですか」と同番地にいた或る企業に働く男に訊く。

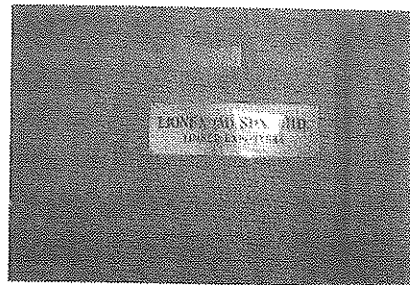
「ああ、その企業なら1年前に転居。私の企業は同番地だが、ボスはインドネシア人だ。内の企業とは別だ」と。

この場合は、資料不足でそれ以上聞けない。今日、シンガポールのラミン停止申し込みは久しぶりに不発だった。

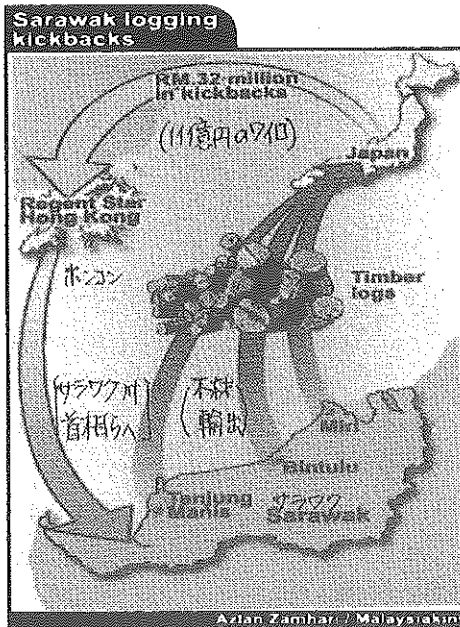


(上はRamin停止したシンガポール企業)

(下/ラミン、メルバウの停止申入れの企業)



(Malaysia / Lionex Sdn Bhd 資本はマレーシア)



The Japan Times report of March 29, 2007 referred to 1.1 billion yen (RM32 million) timber export kickbacks involving companies connected to Sarawak Chief Minister, Tan Taib Mahmud and his family.

マレーシア首相
アブドゥラ・アフマド・バダウィ殿

マレーシア・サラワク州首相タイプ氏に対する汚職疑惑およびマレーシアにおける言論の自由について

拝啓

私たち、以下に署名した日本のNGOおよび市民グループは、ジャパン・タイムズなど日本の新聞が報じた320万リンギット相当のリベート支払い問題にサラワク州首相タイプ・マハムド氏に関与した疑いがあると訴えた通信社マレーシアキニおよび人民公正党サラワク支部指導者に対してタイプ・マハムド氏が名誉毀損訴訟を提起すると脅迫していることに関して、深い憂慮の念を表明いたします。

**やっぱりサラワク首相タイプ氏、
木材輸出関連で汚職・贈収賄か？**

疑惑止求む声に言論弾圧！ 疑惑解明なし

タイプ・マハムド州首相に対する汚職疑惑はジャパン・タイムズの2007年3月29日付の報道がきっかけとなったと聞いています。

2006年3月までの7年間にかけて、サラワク州から木材を運送する日本の海運会社9社がタイプ州首相とその家族が関係する香港のプロカー会社リージェント・スター社(以下Rスター社と略す)に対して報酬として支払った約11億円(2300万リンギット)に関して申告漏れの摘発を受けたと報告されています。東京国税局は、これらの支払いを正当な費用ではなくリベートと判定し、海運会社に重加算税を含む追徴課税4億円以上の支払いを命じる公算だと同紙は報じています。

読売新聞(日本語)も3月28日付けの記事で同様の報道を行いました。3月28日にThe Asahi Shimbun(英文)は東京国税局が関西ライン社に対し、2005年12月までの7年間にRスター社に支払った合計1億3千万円相当のいわゆる仲介料を、サラワクの港での丸太荷揚げ費用として不当に計上し、支払いを隠そうとした理由で、重加算税を含む追徴課税5000万円円の支払いを命じたことを報じました。

さらに朝日新聞(日本語)は3月27日に、南洋材輸送協定(NFA)カルテルに加盟する日本の海運業者が2005年までの10年間に2500万米ドル以上(約2億5千万円)もの仲介料をRスター社に支払った疑いがあると報じました。ある業界関係者が「首相一族側への支払いという認識はあった」と実質的にリベートだったことを認めていることも報告されています。

記事によると、南洋材輸送協定(NFA)は1981年に「デワ・ニアガ・サラワク」(DNS)と日本への丸太の輸送に関する基本協定を締結し、香港のRスター社に仲介料を支払うようDNSから指示されていたことを認めています。

1981年から26年間続いている支払いは当初は丸太輸送量1m3あたり1.5ドル程度であり、現在の同3.28ドルまで年々上昇したとされ、逆に丸太の輸送量は1990年の約380万m3をピークに2005年には約41万m3まで減ったとのこと。1996~2005年の10年間だけでもRスター社に支払われた仲介料は毎年四百数十万~百数十万ドルとなり、総額は約2525万ドルにのぼると推定しています。

また、DNS代表でタイプ・マハムド州首相の弟であるオン・ビン・マハムド氏がリージェント・スターとNFAの間の仲介料の交渉に直接参加することもあったと関係者がコメントしたことも言及しています。

以上から、マレーシアキニおよび人民公正党サラワク支部がタイプ・マハムド州首相に投げかけた嫌疑は噂や風聞から来るものではなく、日本の主要な新聞が一貫して報告した事実に基づいていることは明白です。これらの報告はマレーシア国内の複数の情報源にも裏付けられています。マレーシア国民の利益のために働く組織として、マレーシアキニも人民公正党も表現の自由の権利を行使し、詳しい調査に値する非常に憂慮すべき情報に関して国民および所轄当局に問題提起する責任を果たしたに過ぎません。むしろ、そうしなかったならば、業務怠慢と見なされたでしょう。

問題に警鐘を鳴らす者が名誉毀損訴訟の脅迫をすぐに受けるならば、市民はどのよ

うにして汚職撲滅に積極的な役目を果たすことができるでしょうか。

タイプ州首相は、このような脅迫という手段に訴えるのではなく、むしろ明確な説明を行うべきではないでしょうか。報道された嫌疑が間違っていると考えるのであれば、彼はこうした情報を市民に知らせているに過ぎないマレーシア市民ではなく、日本の税務当局を含め日本の情報提供元に疑問を投げかけるべきではないでしょうか。

貴殿が汚職撲滅を最優先政策課題に掲げ、「汚職を一切認めない」と確約されたことに鑑み、今回のマスコミ報道で浮上した疑惑に関して正式な調査をすぐ開始するよう、貴殿の直接管理下にあるマレーシア汚職対策局(ACA)に指示されますよう要請いたします。汚職対策局が活動を開始できるよう同局に報告を提出することが望ましいと貴殿が公言したことを受け、人民公正党サラワク支部は既に2007年4月13日にクチン中央警察署と汚職対策局クチン事務所にこの件に関する申立書を提出しています。

日本の市民社会も、真実が明らかとなり正義が実現されるために、この調査でマレーシアと協力するよう日本の税務当局に可能な限り働きかけましょう。

また、マレーシア市民が公益のために問題を提起する際、不当な圧力や悪意ある訴訟によって言論の自由を抑圧されないよう保障されることを要請いたします。このような透明性は国際社会におけるマレーシアの名誉と評判を守る上で極めて重要なことです。

敬具

2007年5月

サラワク・キャンペーン委員会
ウータン・森と生活を考える会

【07年グリーン購入法、フローリング追加】

2月2日、環境省提案のグリーン購入法の一部変更案が閣議決定。公共工事にフローリング材が新品目として追加。国等で調達する環境物品に間伐材や「合法証明材」が優先使用。フローリング業界では、「合法証明」材方式が地方自治体へ広がると想定し、団体認証を取得しているが、メルbau使用の企業はどうする？ 施行は07年4月1日。

【財務省、ラミン材に単独の輸入品コード】

2007年1月1日よりラミンの輸入統計品目番号(4403.49-292、4407.28-291)を新設。財務省は林野庁の要請により設置。ラミン材はインドネシア主伐採地で販売停止。

【ラミン等違法材、サラワク州国境で激減】

4月末ウータン調査で、インドネシア政府が違法材対策を強化したので、西カリマンタンから違法材流入がサラワク州側セマタンを除き激減。バツ・リントンで4月木材なし。

【ロシア、2009年から丸太輸出税90%に】

2月5日、ロシア政府は針葉樹丸太輸出を規制し高率の輸出税を設定。2007年7月から丸太輸出税は20%、08年4月1日に25%、09年1月1日から80%(50ユーロ)に。またナーラ、タモ、ブナ等広葉樹も7月から20%、09年1月から40%となる。

(資料：日刊木材新聞2月15日より)

【WWF、FOE等英国政府に木材管理要請】

WWF、FOE、グリーンピース、FERNは3月9日、イギリス政府に「同政府策定の木材調達材が文書での実施で、不満足」と批判。4団体は先住民が居住の原生林をSamling社等の伐採企業が破壊し、それを認めるマレーシアMTCCやカナダのCSA等を認めた木材だと指摘。(資料：WWFジャパンより)

【42回ITTO、天然林破壊拡大対策をと】

5月7-12日開かれた42回ITTO(国際熱帯木材機関)理事会は、「世界の天然林減少の3分の2が生産国で生じ、地球規模の対策が必要」と指摘。同理事会で熱帯林でのCO2排出対策問題にも資金拠出すると表明。次回11月5-10日横浜で。(資料：林野庁HP)

【2007年版世界森林白書発刊】

FAO(世界農業機関)は3月、『2007年版世界森林白書』発刊を公表。特集は100カ国ほどが新規の森林法を導入しており、「持続可能な森林経営・管理への成果」もと。

【FOEJapan、G8環境相で違法材推進を】

FOEJapanは3月15日、G8環境相会合で違法材対策推進を要請。各国が1)公共調達材の実効・検証・地方自治体へ進言・バイオマスエネルギー開発に注意必要、2)違法な生物資源の貿易対策・ワシントン条約保護種輸入禁止措置、3)2国間および地域間協定で証明材を許可と、提案。(FOEJapan)

【違法伐採専門家国際会議で強化と外務省】

外務省は、EUと17木材生産・消費国での3月5-6日の違法伐採専門家国際会議を報告。1)違法伐採が森林破壊、政府歳入減少に繋がる、2)世界的対処へ青写真、3)2国間協定の実効性検証、4)合法材推進・政府調達材の強化、5)「合法」定義は各国の文化等の差異を考慮、6)認証材の資料整備等が提案され、来年の会合で明文化に。(外務省HP)

【第7回UNFF、森林管理、国際目標設置】

4月開催の第7回UNFF(国連森林フォーラム)は、全てのタイプの持続可能な森林経営と国際目標を掲げた。国際目標は、①保護・造林・再造林、②森林に依存の住民の保全、③違法材対策等。(資料：林野庁HP)

温室効果ガス

2007.6.8 新

大幅削減の道険しく

ポスト京都 米の関与不透明

【ハイリゲンダム田中泰義】ドイツのハイリゲンダムで始まった主要国首脳会議（サミット）で、2050年までに温室効果ガス排出量の半減を真剣に検討することで合意した。世界のリーダーが温暖化防止のために決意を示した点は評価できるが、米国の関与が不透明なうえ、当初目指していた数値目標設定は見送られた。12年で期限を迎える京都議定書後、大幅削減を描く道は険しくなりそうだ。

国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）によると、現在の二酸化炭素（CO₂）排出量は世界全体で約72億トン。半減できれば森林や海洋の吸収量（約31億トン）に近づき、大気中のCO₂濃度を安定化する可能性があるが出てくる。IPCCは今年4月、温度上昇が2〜3度を上回ると、世界全体に深刻な影響を与えると警告した。この

**地球温暖化対策
合意内容(要旨)**
ハイリゲンダム・サミットの地球温暖化に関する合意内容は次の通り。
・気候変動は真の脅威であり、温室効果ガス削減に向けた断固たる協力的な国際社会による行動が緊急に必要とされている

ことに強く合意。
・我々が合意したすべての主要排出国を含むフロセスで、50年までに地球規模での排出を少なくとも半減させることを含むEU（欧州連合）、カナダ、日本による決定を真剣に検討する。
・京都議定書の期限となる12年以降の包括的

ため、サミットでは「半減」2度が焦点だった。だが、米国はいずれの数値にも「現実的ではない」と反発。結局、欧州連合（EU）と日本、カナダが半減に向けて取
な合意の達成に向け、07年12月のインドネシアの国連の気候変動会議に積極的に参加するよう、全締約国に呼びかける。
・主要排出国が08年末までに新たな枠組みのための具体的な貢献を行うことが重要。今年後半に米
国が合意を主催するとともに申し出を歓迎。

り組み決意を示す「玉虫色の合意」に落ち着いた。日本の05年度の温室効果ガス排出量は04年比7・8%増で、京都議定書の6%削減の達成が困難

しい状況。50年の世界の人口は多い場合で100億人と予想され、1人の排出量は約0・8トンになる。現在の日本人1人当たりの排出量のほぼ10分の1で、抜本的な社会構造の変革ができるのか問われる。

中国やインドなど途上国は「一貫して「温暖化を招いたのは先進国」という立場から、排出抑制を課せられることに抵抗している。近い将来、中国

は米国を抜いて最大の排出国となる。5位のインドも欧州各国より多い。今回のサミットでも、米国は温暖化防止への積極的姿勢を見せなかったことが求められる。

「主張認められた」安倍首相
【ハイリゲンダム田中泰義】「ハイリゲンダム地球温暖化問題」で各国首脳が合意したことに伴って、安倍晋三首相は7日、記者団に対し「日本の主張が認められた。サミットの最重要課題の一つで合意できたのは大きな成果だ」と評価した。さらに「来年の北海道洞爺湖サミットに向け、今回は通過点。洞爺湖で成果を出したい」と述べた。



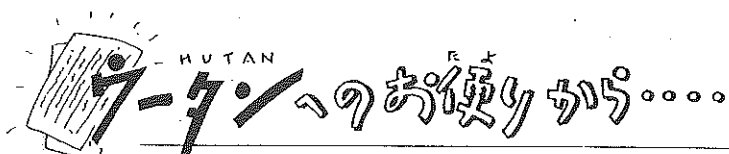
HUTAN ACTION SCHEDULE

◎ ウータン事務局より……

今のところ、主だったスケジュールが決まっております。

又、DMなどでお知らせあることになると思います。

いつも、ご協力を感謝しております。(ウータン同)



《会費、カンパを頂いた方々》(2007年3月24日～2007年6月20日)

(敬称略)

飯高輝 市井晴也 伊東真吾 上田広子 大倉一美 大東弘 大平浩子 岡本昭子 志饒真由美
田岡めぐみ 田村節子 西谷陽子 熱帯森林保護団体・南研子 島山誠子 藤岡正雄 本田次男
前川有 松本剛一 宮沢翔子 明周正和

(ありがとうございました)

HP ▶ www.hutang.org/ / Email ▶ fwpc3808@mb.infoweb.ne.jp



ウータン・森と生活を考える会

[OFFICE] 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36
サクラビル新館308
「関西市民連合」気付
Tel.06-6372-1561

【一部】300円 【年会費】4000円

【郵便振替】00930-4-3880

◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務局までご連絡下さい。

◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。